

本講義資料のご利用にあたって

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。

著作権が東京大学の教員等に帰属する著作物については、非営利かつ教育的な目的に限り複製および再配布することができます。

ご利用にあたっては、以下のクレジットを明記してください。

クレジット：

UTokyo Online Education 学術フロンティア講義 2025S 福本 理恵



教育の流れと
トランスフォーメーション
ー 能力から意識、そして存在へ ー

株式会社SPACE／一般社団法人EARTH
代表 福本理恵





私たちはなんのために学び、
生きているのか
それぞれの違いを携えて
いかに幸福に共存できるのか

「流れは必ず「よどみ」を孕む。
よどみがなければ流れは見えない。」

— 大森荘蔵 『流れとよどみ』 —

My History

- 
- | | |
|----------|---|
| 24歳 | 東大博士課程（進化心理学）に入学 |
| 27歳 | 体調を崩して大学院博士課程を休学 |
| 29歳 | 料理専門学校へ入学 |
| 30歳 | 種から育てる子ども料理教室スタート |
| 31歳 | 大学院博士課程を退学・東大先端研へ戻る |
| 32歳 | 農と食のライフシードラボを立ち上げる |
| 2014年12月 | 異才発掘プロジェクトROCKETをスタート |
| 2020年 8月 | 株式会社SPACE設立 |
| 2021年 6月 | 経済産業省「産業構造審議会」委員
文部科学省「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における
指導・支援の在り方等に関する有識者会議」委員 |

食
×
心
理
×
教
育

近代化教育からの流れ

— 教育の変容を俯瞰する —

「知識・技能の習得」を中心に

- 1872年の学制以来、日本の学校教育は「国民の均質化」「標準化」を目的とした制度設計を行ってきた

出典:教育史研究・学制史

「学習指導要領」が長らく知識・技能中心

- 学習指導要領は長く「知識・技能の習得」「基礎学力」を主軸にしてきた

出典:文部科学省『学習指導要領 前文』文部科学省〈学習指導要領前文〉



出典：『小学入門教授図解』（明治初期・教育錦絵）
国立教育政策研究所教育図書館貴重資料デジタルコレクション
<https://www.nier.go.jp/library/rarebooks/teaching/K110-1.54/>

多様化した社会と固定化した学校とのズレ

18万人

通級指導を受ける
児童生徒

文部科学省
特別支援教育資料

514人

児童生徒の
自殺者数

文部科学省・厚生労働省
「令和6年度 自殺統計」

35.4万人

全国の不登校者数(1年間に理由
なき欠席が30日以上)

児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導
上の諸課題に関する調査
(令和6年度)

文部科学省

認知的偏りの現状

不登校児童生徒の読み書き困難

28.5%

ROCKETプロジェクト(2020)

文部科学省の調査(2012)では、読み書き困難児・者の割合が2.4%であるが、実態は約10倍以上の割合が困難を抱えている現状

アートクラフト系に興味のある割合

26.9%

教科書さえ開く気にならない

40.9%

ROCKETパルアンケート(2016)

多様なニーズ(LGBTQ、外国ルーツ、医ケア児など)

- 文科省:外国籍児童生徒 12万人超(10年で1.7倍)
出典:文部科学省「外国人児童生徒等教育の現状」(2023)
- 性的指向・性自認に関する困難 → 学校での配慮指針を2023年に改訂
出典:文部科学省「性自認および性的指向に係る教職員向け手引き」(2023改訂)
- 医療的ケア児の増加 → 学校現場の体制が急変
出典:厚生労働省「医療的ケア児支援法関連資料」(2021～)

個別最適な学び

- 文科省が「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」を2020年に明記。
出典:文部科学省「GIGAスクール構想」／中央教育審議会(2020)

均質化モデルからの構造転換

実践としての流れ

— ROCKET → SPACE → EARTH —

#研究

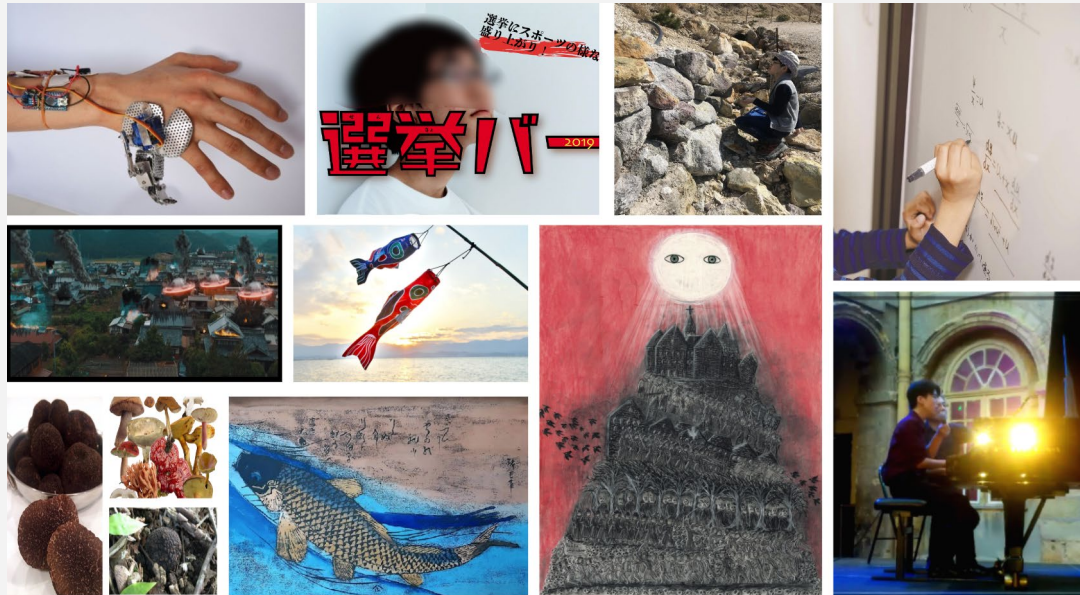
#東京大学

#日本財団

ROCKET 異才発掘プロジェクト

2014-2020年まで東大先端研×日本財団が共催

好きなことをとことん追求し、試行錯誤できる場の提供



こだわりの強さ

感覚センサーの感度

興味関心の
強さと程度

多様な
思考スタイル

できることとできないことに、凸凹があるユニークで愛おしい子どもたち
一人一人異なる興味関心・認知特性等を持つ存在だからこそ、多様な学び場が必要

ROCKETのスカラー候補生の関心領域

関心領域	人数（人）	割合（％）
芸術	35	26.9
サイエンス	17	13.1
テクノロジー	16	12.3
数学	7	5.4
歴史	7	5.4
文学	6	4.6
物理	4	3.1
工学	3	2.3
政治経済	3	1.5
ロボット	2	1.5
医学	2	1.5
教育	2	1.5
地学	2	1.5
農業	2	1.5
その他	22	16.9

- 芸術系が26.9%と4分の1以上いることが特徴的で学力テストの成績が評価される学校で不適応を起こした子ども達にとっては、その代替として芸術が自由な表現になっている可能性がある
- 芸術分野以外の専門領域についても、学校内では十分に学ぶ環境が整っていないため、ROCKETのような学びの場でエキスパートのレクチャーを受けたり、同じ興味関心を持つ仲間と交流したりすることでニーズを満たしている子どもが多いことが考えられる

書くことができないが、描くことはできる

7	山みく	17	たは
8	てっさう	18	まご
9	かみ	19	す
10	とりま	20	けき史

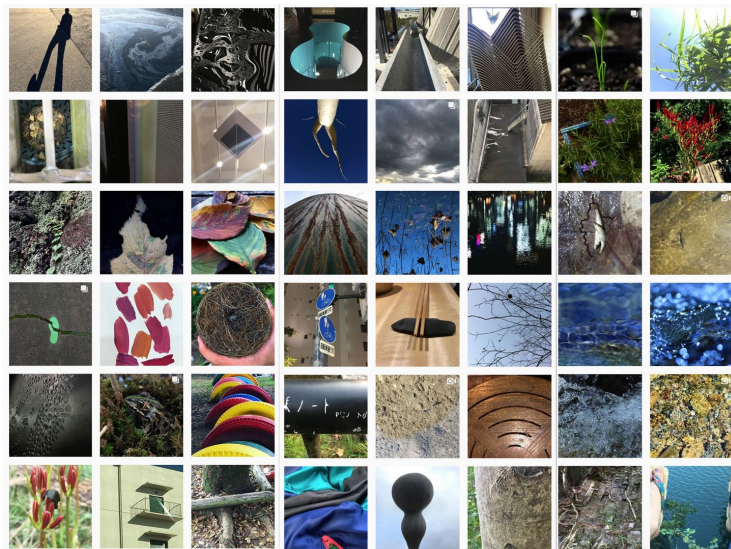
漢字を思い出して書く課題におけるAの回答

(左上から, 7:山脈, 8:卒業, 9:鏡, 10:努力, 17:束, 18:孫, 19:巢, 10:歴史が正答)



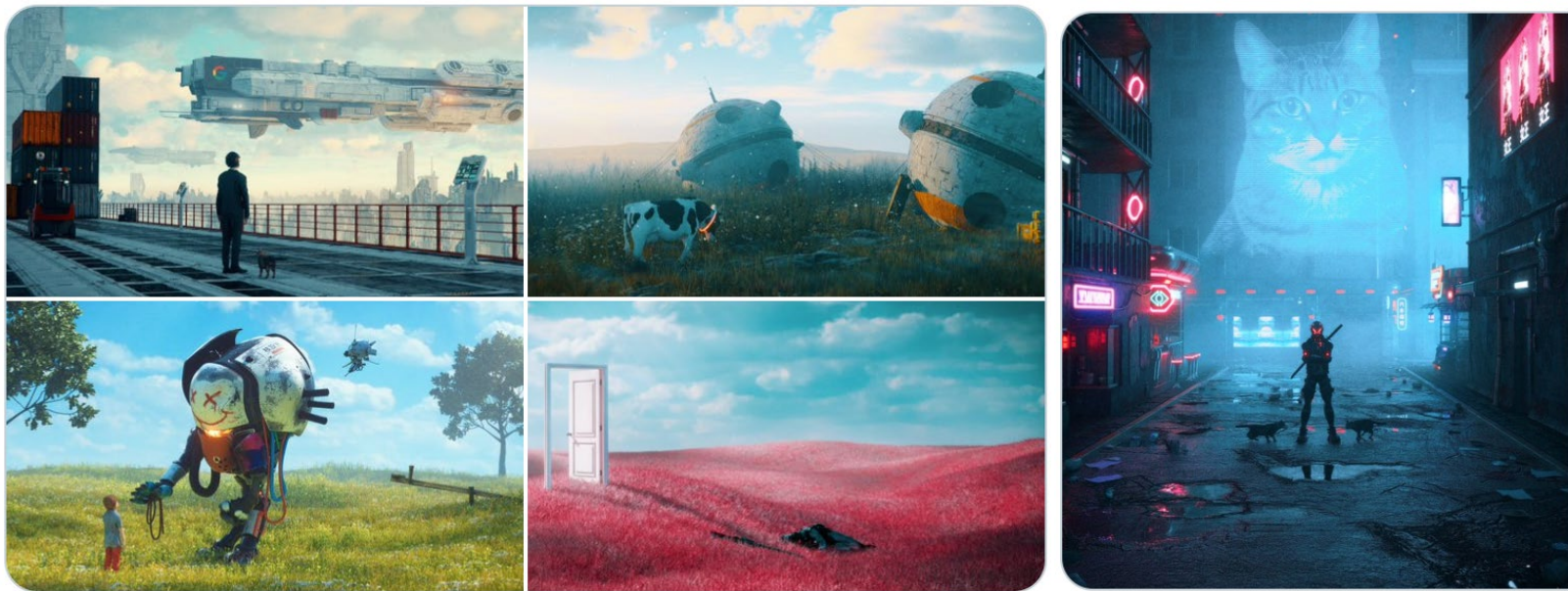
文字は書き順や形の規則性があるが、絵は頭の中のファンタジーを好きなように自由に表現できる。

聴覚での一斉授業は苦手だが、映像学習ができる



先生の話聞いて理解することは難しくて学校の勉強は苦手だったが、高卒認定の勉強の時にyoutubeなどの映像学習をした際にとてもよく理解できて、反復したりペースを自分で調整できると理解できることがわかった。

対面は苦手だが、オンラインで仕事ができる



対面の会話はとても苦手で意思疎通ができないが、メールでのやりとりだとできてそのおかげで映像の仕事も自宅から遠隔で受注することができている。

#研究

#東京大学

#日本財団

ROCKET 異才発掘プロジェクト

SPACEを生んだROCKET

Room Of Children with KOKOROZASHI and Extraordinary Talent
(志と特異な才能をもった子ども達の集まる部屋・空間)

学び方のポリシー

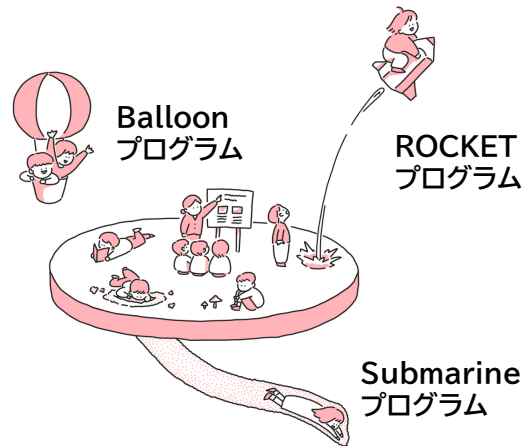
- 教科書なし
- 時間割なし
- 目的なし

Reality:リアリティ
Resilience:レジリエンス
Development:深掘り
Diversity:多様性

プログラム

- 日本の61市町村
- 海外14カ国、21都市

約370個のプログラム
を実施

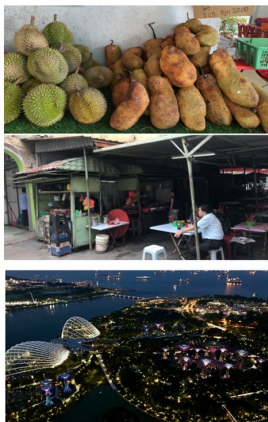


子ども達の認知特性や学び方の指向性によって学ぶスタイルも異なるため、プログラムを3つの枠組みで設計し、
その中で活動ベースの様々な学び方を子ども達が選べるようにした

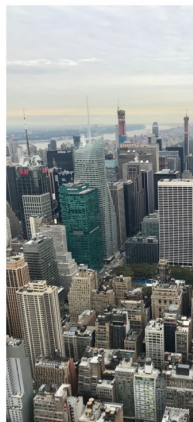
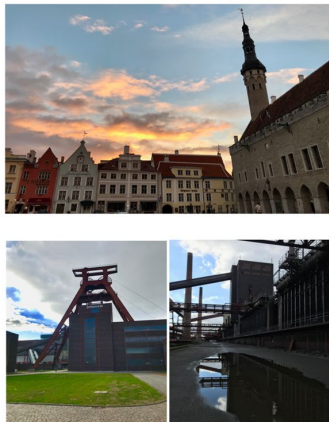
Recipe for Life

価値観の軸: 価値観をつくり出す学び

人生に価値を生む心が震える瞬間を捉えるために旅にでる
暮らしの中にある文化や生き様を通して人生の価値を作っていく



当たり前から脱出するときに気づける暮らしの意味
「世界の中心を探せ, 2018」



世界にある暮らしに出逢い自分の哲学を作っていく
「原料、製品、エネルギーを考える, 2017」



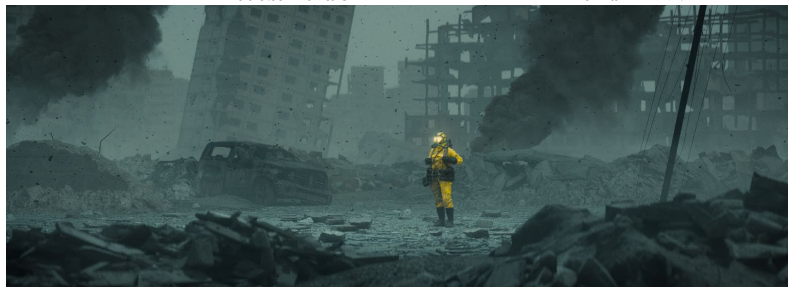
ROCKET海外研修(インド) ダイジェスト映像

自分たちの道を進むROCKETの青年

異才発掘プロジェクトROCKETを通じて発掘・育成してきた人材が国内外で活躍の場を広げている。

映像クリエイター: nagafuji riku (ROCKET1期生)

- オリジナル作品を国際的なNFTマーケットで高値で販売



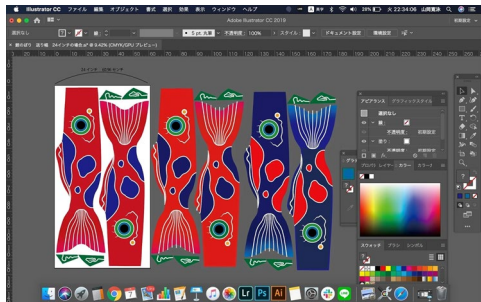
ドローンパイロット: 高梨智樹 (MAZERU2018 出場)

- 情熱大陸 出演 (2019年)



鯉のぼりクリエイター: 山岡寛泳 (ROCKET4期生)

- Good Design New Hope Award 受賞 (2022年)



絵本作家: 濱口瑛士 (ROCKET1期生)

- テレビ東京『23時の密着テレビ「レベチな人、見つけた」』出演



与えられている時間を
自分を生かすために費やすことが大事

ユニークネスは自らを知り
その「らしさ」を突き詰めていく先に生まれる

異才から個才へ

ROCKETが飛んでいくさきに
果てしなく広がり
変化し続ける宇宙

人々の意識が繋がり、生み出される「SPACE」を
人生の可能性が広がる空間へ



2014 **ROCKET** →→→ 2020 **SPACE**

#学習

#個別最適

#認知特性

SPACE 個々を生かす「個才」のアセスメント

Super Personalization Activated by Curiosity and Enthusiasm

好奇心と情熱で作動する

究極のパーソナライゼーション

すべての人たちが心の中にある
好奇心と情熱に導かれるままに、
最大限に自分らしい可能性を
開花させて生きられる世界を創りたい。
誰もが自分の存在を尊び、
人生の主人公として生きること
喜びを感じる未来を切り拓きたい。
「SPACE」が叶えたいのはそんな未来の世界です。

既存の教育システムと
ブリッジしながら
新教育システム・教育観へ移行

意識の変容



へ —

ん し ん

見える世界が変われば
 いつのまにか変身しているかも
 きっかけは君の中に！

Uniqueness
Liberation
Through
Learning optimization and
Assessment

学びの最適化とアセスメントを通じた個性の解放

#マツチング

Uniqueness Liberation Through Learning optimization and Assessment

自分らしさを
発見する！

自分を知る「自分学」



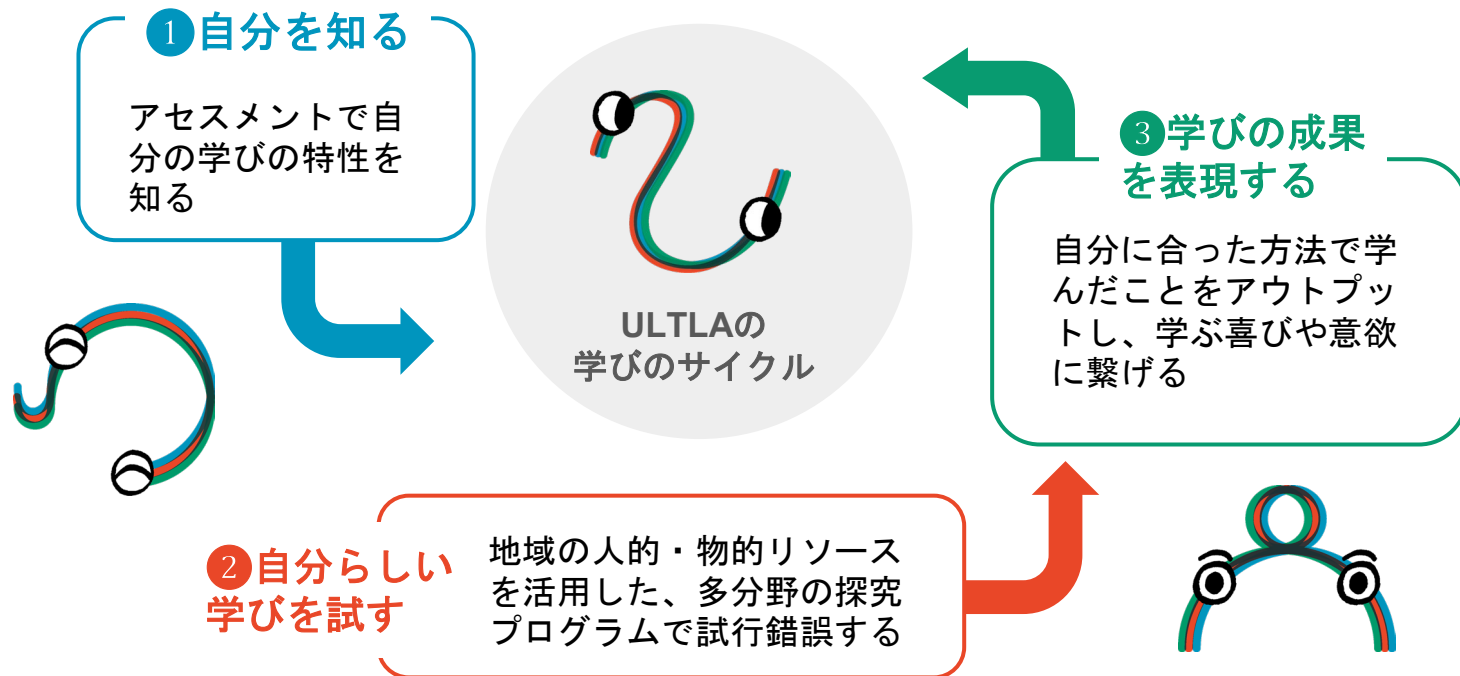
アセスメントで把握すること

- 興味関心領域
- 思考のスタイル
- 認知特性
- 好奇心スタイル

自分がどんな内容・方法・場所だと学びやすいのか比較しやすくするためのフレーム

ULTLAプログラム 「個才」を地域で育む教育

Uniqueness Liberation Through Learning optimization and Assessment



サイクルを繰り返すことで、**自分らしい学びに気づき、自己変容・自己実現へと繋げる**

自分らしさを探究するULTLAの3日間

day
1

知る・出会う

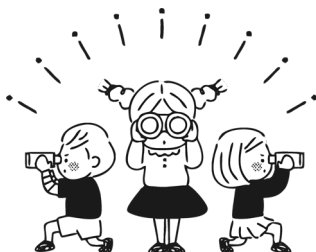
- アセスメントと自分学から「個才」を知る
- 多様性の事例に触れ、環境に合わせて自分らしい特性を生かすヒントを得る
- 多分野の技術や知識を知る
- 五感を通じて、自分らしい感覚を掴む
- **感覚の軸**をつくる



day
2

表現・創造する

- 多分野の技術や知識から、興味関心を探る
- 知識や技術に触発され、試行錯誤しながら自分らしい表現で創造する
- **知識の軸**をつくる



day
3

共有する

- 感覚や知識をもとに自分が大事にしたい価値観を見つめる
- 自分が表現・創造したものを社会と共有し、フィードバックを受ける(関係性自己、他者への共感)
- **価値観の軸**をつくる



自己認識

自己表現

関係性における自己認識

theme

01

海のプログラム

- 鎌倉の海の生命、海的环境から学ぶ
 - 生物多様性
 - 進化の過程と生存戦略
 - 海の機能、環境問題
- 活発、躍動的、身体性

theme

02

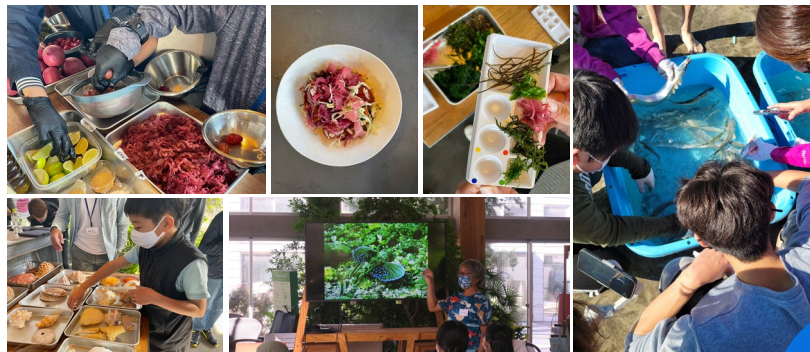
森のプログラム

- 鎌倉の森の生命、森的环境から学ぶ
 - 寺社仏閣の機能
 - 植物の特性、自然の理
 - 非言語コミュニケーション
- 静寂、内省的、精神性(霊性)

共通して盛り込まれているエッセンス

- 異領域が繋がるシナリオとテーマ設定
- 「個才」の主観と客観からの自己評価プロセス
- 身体性と霊性を磨くアプローチ
- 感覚知と実践知を繋げる創作活動
- 個人ワークと集団ワークの折衷型

2021 ーカタチのチカラー



2022 ーイノチはメグルー



2023 ーあることないことー



海



2021 ーリズムとテンポー



2023 ーゆらぎとひびきー



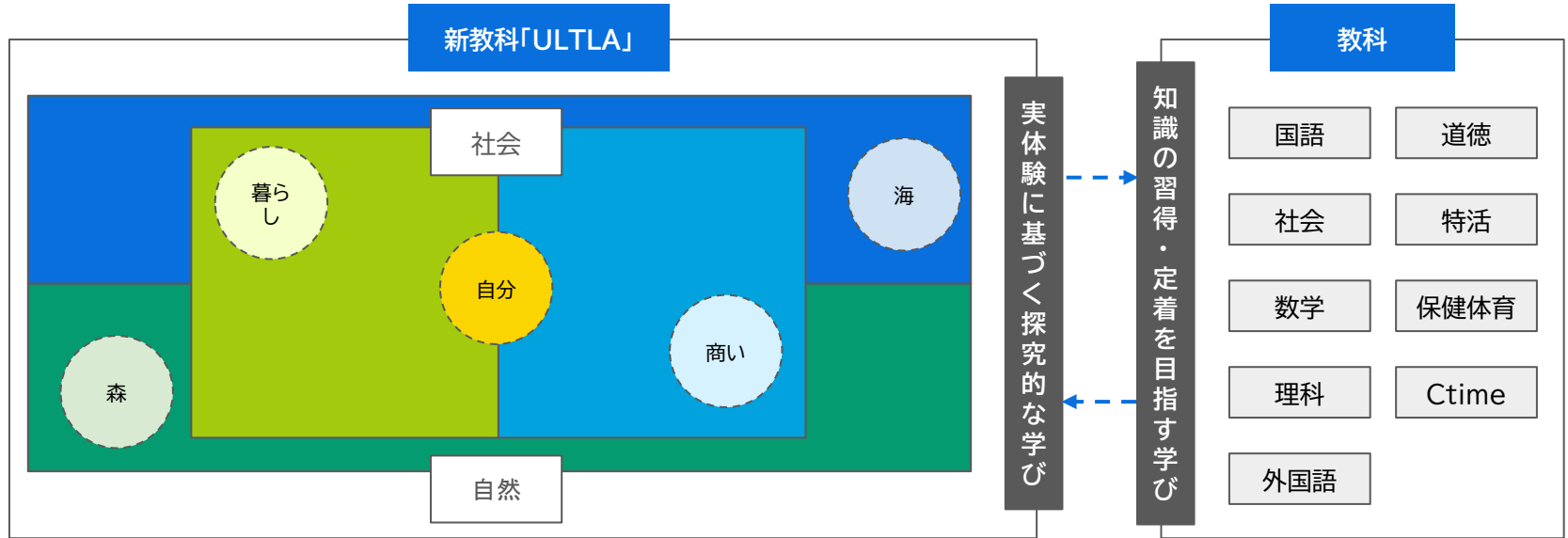
2022 ーウゴクとトマルー



森



ULTLAでの「学びの構成要素」と「学びのステップ」



上図のように、新教科「ULTLA」では「自分」を中心とする「社会」と「自然」の構成要素から学ぶ探究学習と、教科学習との往来を通じた知識の構築に基づき、右図のステップで自己探究を深めていくことを目指す。

STEP1

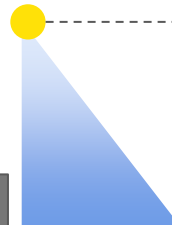
テーマ探究

STEP2

生き方探究

STEP3

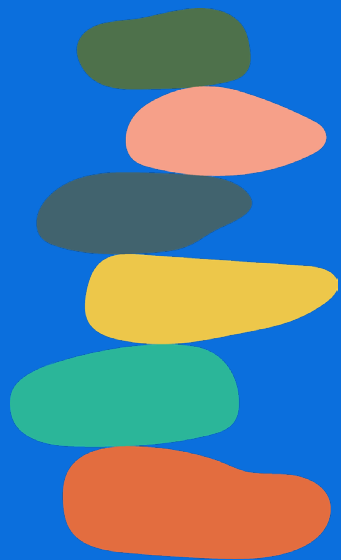
自己探究



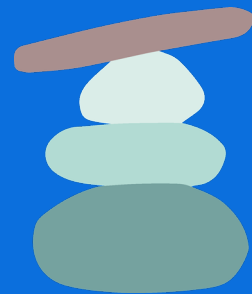
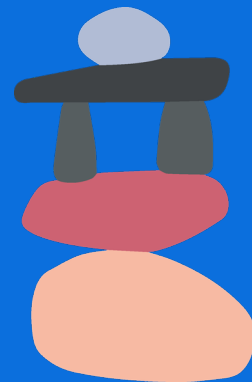
自己探究の深化

- 学びの視点の付与
- 興味関心からの発見
- 既習知識と実体験の結びつき
- 新知識・人・物との出会い
- 自己の再発見、再構築

自分らしさの発見



2024年度のテーマ
— 石と意志 —



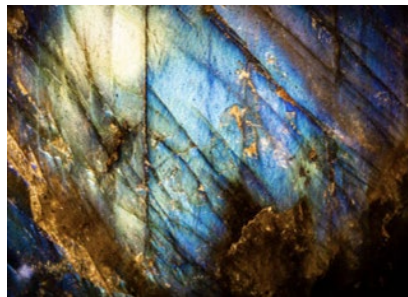
自然が生んでくれた多様性／ヒトの意志を超えた存在



宇宙



地球



大地



石



自分とは？



森

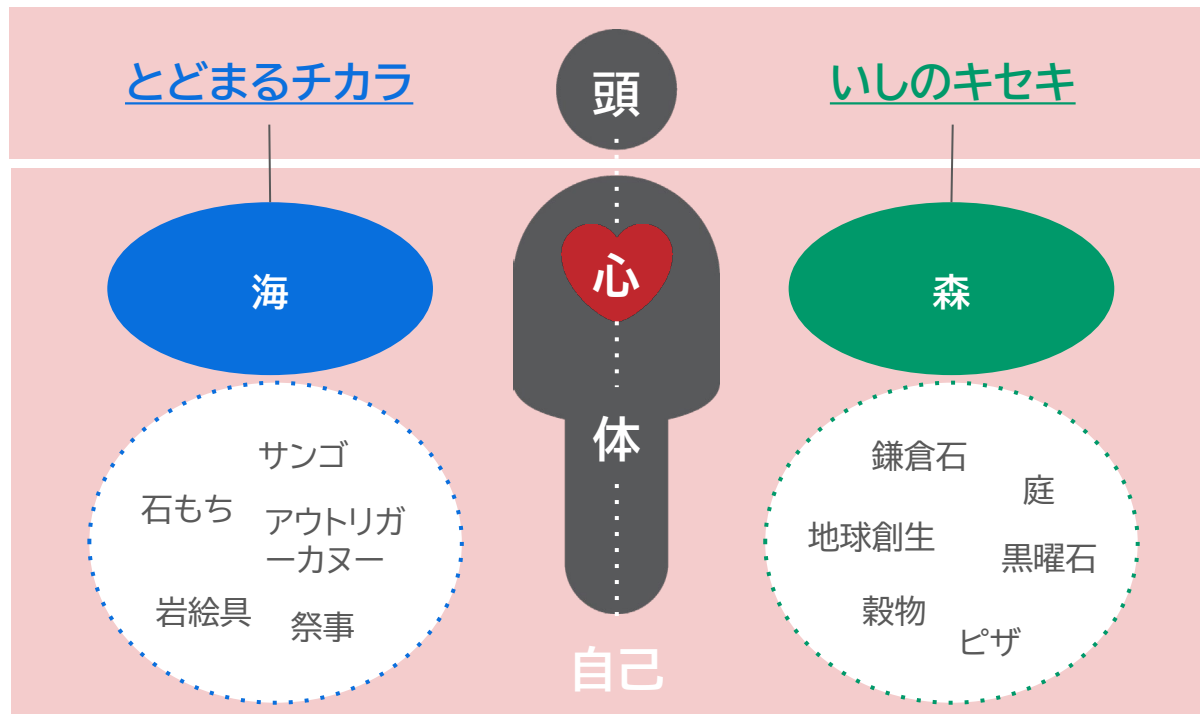
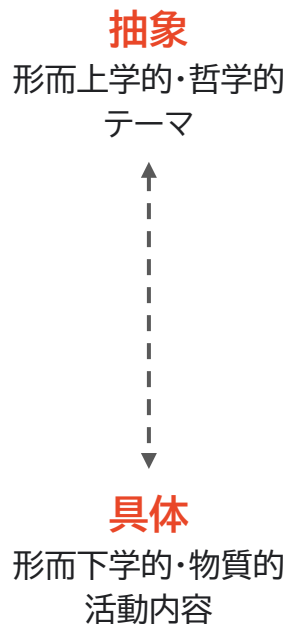
海

ヒトの
意志

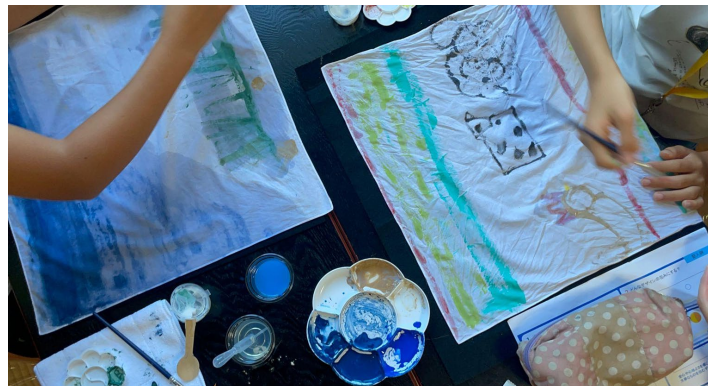


ポイント

自己理解に繋がる地球の要素を「海」と「森」に紐付け、
具体的な事象を抽出し、抽象的なテーマと関連づけるように設計



海のプログラム「とどまる力」



海のプログラムの活動概要

1日目

- サンゴの生態(動物から石へ)
- 地球の生成
- 鎌倉の海の生き物(石持ち)

2日目

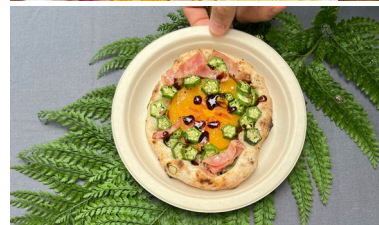
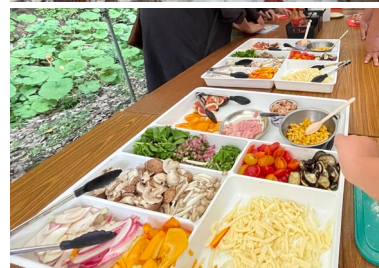
- アウトリガーカヌー(自然の意思、自分の意思、仲間の意思)
- 鎌倉野菜と自然のサイクル
- 岩絵具の多様性

3日目

- 玉手箱の創作
- ストーンセレモニー



森のプログラム「いしのキセキ」



森のプログラムの活動概要

1日目

- クリスタルヒーリング
- 古代のくらしと石の役割
- 穀物の食
- 宇宙の創生と大地の成り立ち

2日目

- 鎌倉石とお寺の庭
- 黒曜石のナイフの制作
- ピザ窯の制作

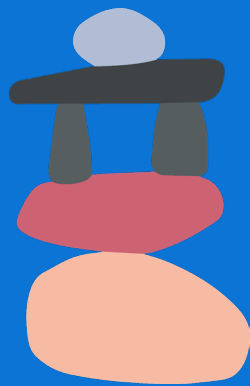
3日目

- ピザメニューの考案
- ピッツァ祭

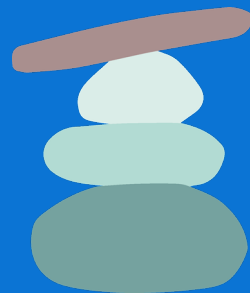


固定概念や枠組みを外していき
新しい視点からの教育の再定義

意識の変容から、社会の変容へ



— 石と意思 —

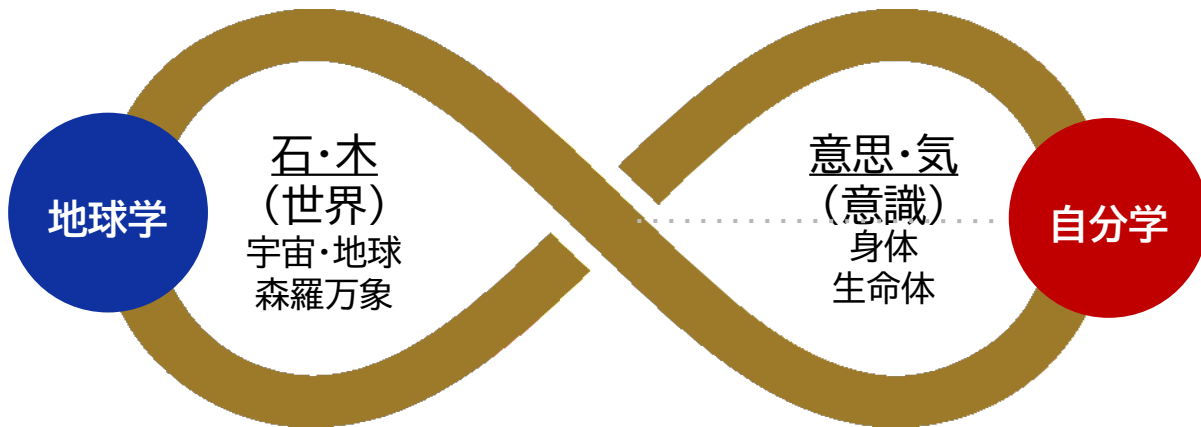


— 木と気 —

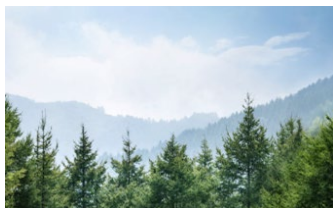
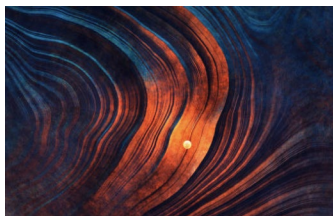


〈自然 × 身体 × 環境〉を結ぶ 学びの循環プログラム

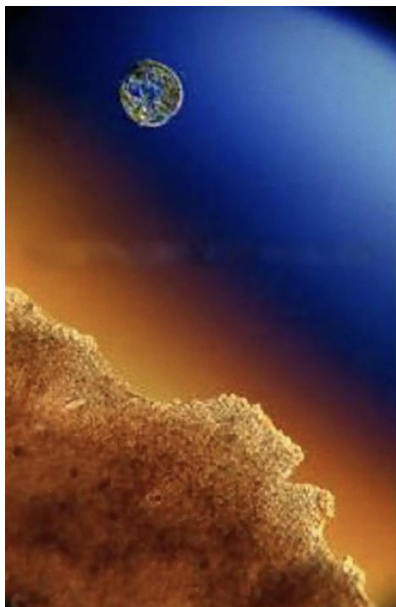
〈石と意思〉／〈木と気〉



〈石＝悠久の地球の記憶と構造〉と〈木＝森羅万象〉を
〈意思＝内なる創造・選択の力〉と〈気＝生命エネルギー〉を通じて
味わい、自分と自然・身体・環境とのつながりに主体的に気づき、そ
こから一人ひとりに最適な学びが育まれる。
「自分の意思もまた環境とともに変化・進化できる」という可能性
を体感し、「世界は意識で創られる」という気づきを多層的に体感
する学びの循環プログラム。



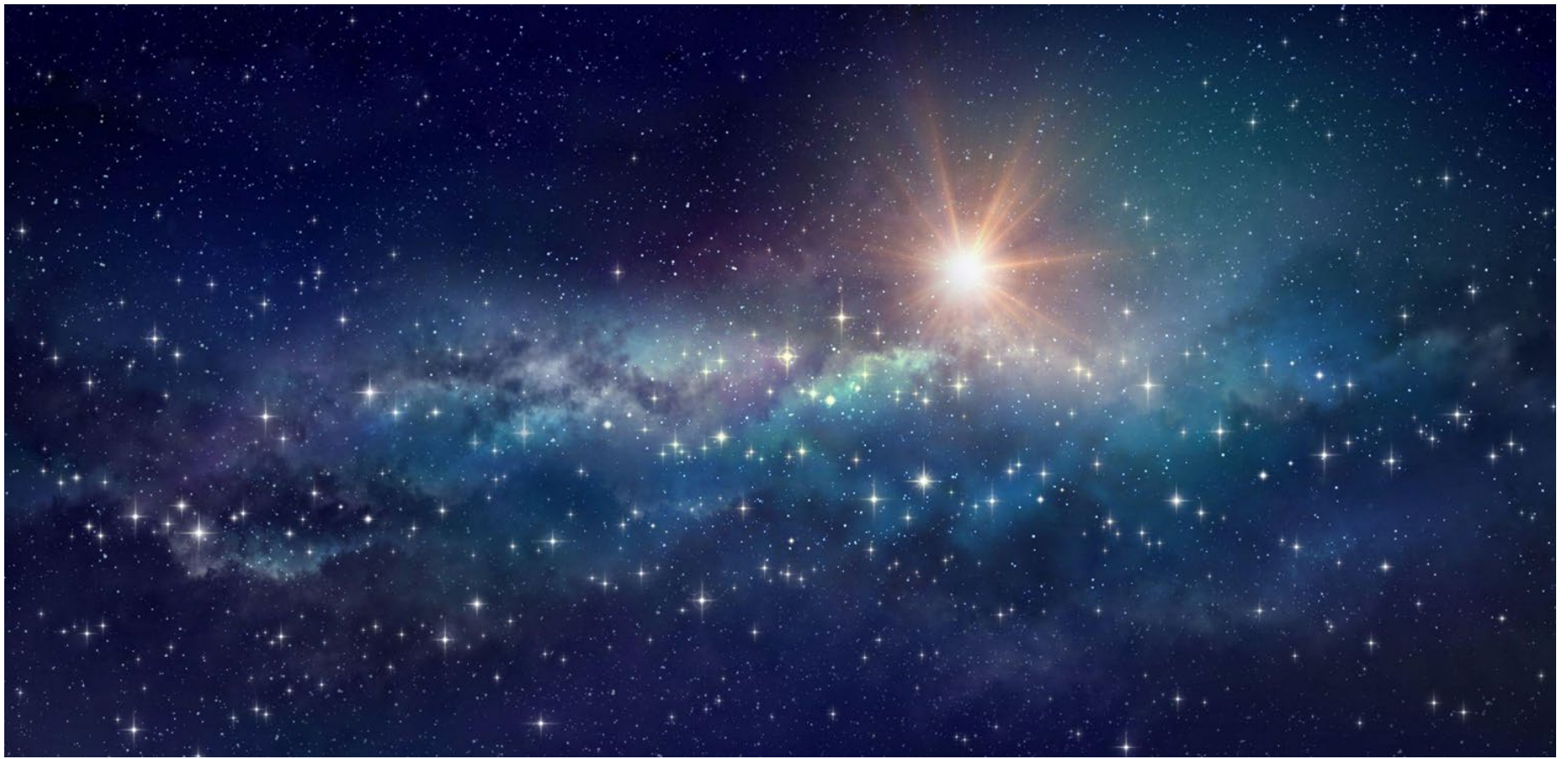
38億年の**生命誌**の視座に立ち
動的平衡として立ち上がる生命の営みを
死物化した社会に取り戻す



出典：Lennart Nilsson, *A Child Is Born* (邦題『誕生』), Delacorte Press, 1965 ほか

「地球は一つの自己調整する生命システムである。」
— ジェームズ・ラヴロック (『ガイア：地球生命圏からの13の警告』より意識)

「いのちの実存を探究する世界、EARTHへ」



SPACE →→→ **LIFE**

AI・ロボット時代に
私たちの「存在」や「生命」の意味が問われる

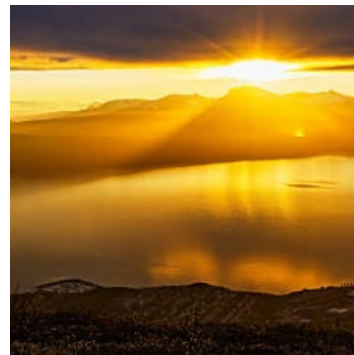
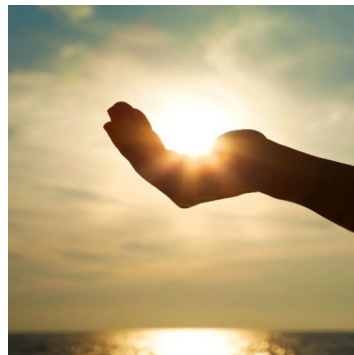
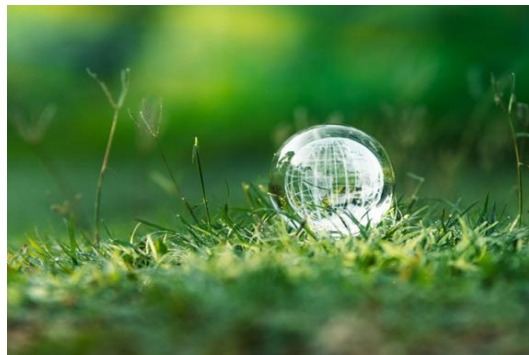


地球に生きる生命体として
「衣食住」の日々の暮らしに根差した
「いのちの教育」

実存の探究



SPACE →→→ **EARTH**



地球をまるごと学び場へ

—科学・哲学・芸術を融合させ、身体と魂の再統合への探究—

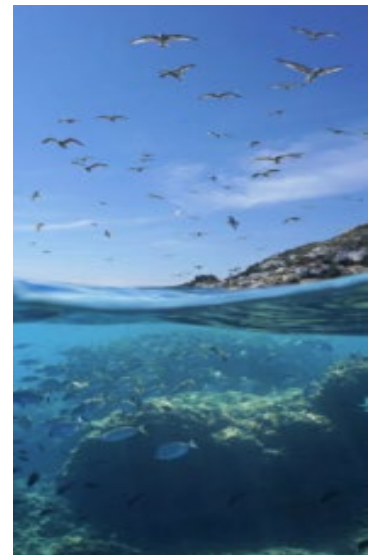
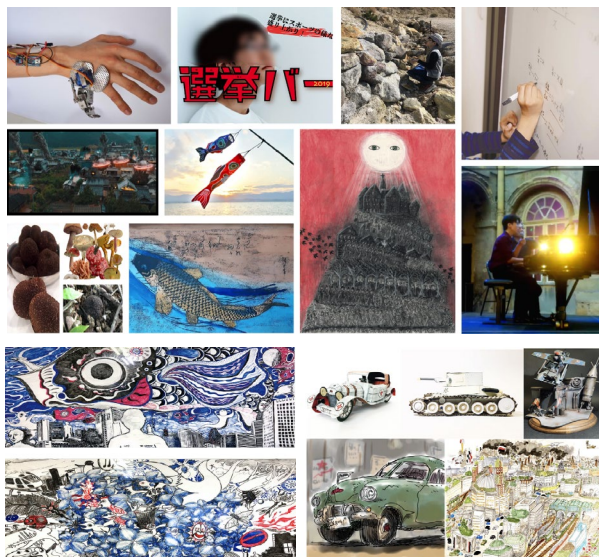


実践から制度への間に生まれる「流れ」

— 流れを生むものとは —

教育のトランスフォーメーション:能力→意識→存在へ

ROCKET → → → → → **SPACE** → → → → → **EARTH**



ROCKET / SPACE / EARTH:三つの象徴が紡ぐ、いのちの教育への進化

140時間の新教科ULTLAへ

2025年4月「由比ガ浜中学校」開校



実践から教育制度に生じた変化の流れ

2014

ROCKET ---▶ 2016 教育機会確保法 制定

↳ 不登校は「問題行動ではない」へ(法で初明記) 出典:教育機会確保法(平成28年法律第105号) / 国会審議録(文科委)

2017 文科省「不登校支援」通知

↳ 学校外学習を校長判断で出席扱い可能と明文化 出典:文部科学省「不登校児童生徒への支援」(2017年通知)

《コロナパンデミック》

2020

SPACE ---▶

2020 個別最適な学び(制度として明記)

↳ 均質化モデルからの転換点 出典:文部科学省「GIGAスクール構想」/ 中央教育審議会答申(2020)

2021 特異な才能支援 有識者会議 発足

↳ 才能を公教育が扱う本格的制度化 出典:文部科学省「特異な才能のある児童生徒の支援に関する有識者会議」(2021-)

2022-2025 不登校・特異な才能支援の実証事業の拡大と自治体導入の進展

↳ 不登校×キャリア教育モデルを開発し、複数自治体へ波及 経産省「未来の教室」実証事業(2022)

《AI元年》

2025

EARTH ---▶

↳ ULTLA・God Hands の自治体実装 鎌倉市教育委員会(2021-) / 経産省(2023)

↳ 鎌倉市教育委員会により鎌倉市立由比ガ浜中で新教科 ULTLA を新設 鎌倉市教育委員会「2025年度計画」

教育とは、自然・社会・身体・意識が
交差する「出来事」の場である。

出来事の連なりが流れを形づくり、
教育を「変容」させ続けていく

「世界とは出来事である。
出来事として世界を生きるとき、
人は固定的な自我から自由になる。」

— 大森荘蔵『存在と意識』(1971)／『時間と存在』(1974) —

一滴が大河の流れとなる



あなたは「今」、
「未来」を生きるために
どんな出来事を選択する？

未知の出来事への流れ